

## 普及活動情勢報告（平成30年9月分）

須崎農業振興センター農業改良普及課

### キュウリ黄化えそ病・害虫対策！ ～キュウリ決算総会～



決算総会の様子

8月20日にJA土佐くろしお販売課にてキュウリ部会決算総会が開催され、生産者65名が参加しました。

農業改良普及課はJAと協力して、IPM試験の結果報告や栽培で問題となる黄化えそ病・害虫対策として、0.3mm目合いの防虫ネットの展張による高い害虫侵入防止効果やほ場内外の除草の必要性やガイドライン準拠高知県版GAPへの取り組みについて周知しました。参加者からは「害虫を入れない、出さないために防虫ネットを張らんといいかね」とか、「除草も大事やね」といった声が聞かれました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と協力してキュウリ黄化えそ病対策とGAPの推進に向けた支援を行っていきます。

### キュウリの安定生産に向けて ～キュウリ勉強会を開催～



勉強会の様子

8月24日、JA土佐くろしお営農センター2階会議室で環境制御技術とIPM技術、GAPの勉強会を開催し、キュウリを生産者11名が参加しました。農業改良普及課は、「キュウリ黄化えそ病と天敵利用について」、「環境制御装置導入のメリットと見方、活用方法について」、「GAPに取り組みましょう」の3つのテーマで説明しました。

生産者からは、「化学合成農薬がこれほど効かなくなっていることに驚いた」、「大雨が降れば、野外のミナミキイロアザミウマは減るのか?」といった質問や感想が出され、ローテーション散布の重要性、ミナミキイロアザミウマ対策として天敵利用等が理解されました。

農業改良普及課は、今後もキュウリの安定生産に向けて現地検討会や勉強会を通じた情報提供等を行い、農家のレベルアップに繋がります。

### IPM技術の向上を目指して！～JA土佐くろしおインゲン部会天敵講習会～



講習会の様子

8月29日、JA土佐くろしおインゲン部会が天敵講習会を開催し、生産者など合計22名が参加しました。

まず、中土佐町久礼地区で平成26年から29年にかけて実施した天敵実証試験の報告が病害虫防除所からありました。

その後、農業改良普及課とJAから、平成31園芸年度における、施設サヤインゲンの天敵の活用について提案しました。

生産者からは、「天敵を利用しているからこそ、他の病害虫をしっかり観察し、先手の対策をしないとイケない」といった意見があり、天敵利用についての理解が深まったと感じました。

今後、農業改良普及課は、平成31園芸年度にJAと連携して、天敵利用技術の実証展示を行い、施設サヤインゲンにおけるIPM技術体系の確立を目指します。

お米のコンクール出品に向けて、もうひと踏ん張り～おのおのみエコロジーファーマーズの取組～



個々の圃場での  
現地検討の様子

8月28～29日にかけて、おのおのみエコロジーファーマーズが今年度から取り組む「お米のコンクール」出品に向けて、現地巡回を実施し、4名が参加しました。

個々の圃場において、水稻の生育状況を確認し、今後の栽培管理について、生産者と振興センター職員とで意見交換をしました。

生産者からは、「これからの水管理が重要！」「特に意識を高く持って管理したい」といった意見があり、コンクールに臨む意識の高さが見受けられました。

今後、農業改良普及課は、現地巡回を通じて、個々の圃場での収穫適期について情報提供していき、コンクール上位入賞に向けてサポートしていきます。

環境測定装置の活用による更なる所得の向上を目指して！ ～環境制御技術勉強会の開催～



環境制御技術勉強会の様子

9月7日、農業改良普及課では“環境測定装置導入の重要性と栽培管理への活用方法について”のテーマで勉強会を開催しました。

約70人の参加があり、講師から、植物生理と環境応答について、①光、②気温、③湿度、④水、⑤CO<sub>2</sub>に着眼し、植物がどのように反応するかというわかりやすい解説とともに、その制御のためには環境測定装置が必要であることを説明していただきました。

また、参加者からの細霧装置の活用方法等の質問に対して回答いただくとともに、新たな視点での環境測定のコツをいただくなど、更なる環境制御技術の発展に繋がる勉強会となりました。

農業改良普及課では、今後も環境制御技術の普及を図り、生産者の所得向上に向けて取り組んでいきます。

柑橘類の効率的な病害虫防除法について～柑橘栽培での病害虫防除講演会の開催～



講演会の様子

8月21日にJA土佐くろしお浦ノ内支所にて柑橘栽培での病害虫防除講演会が開催され、生産者20名が参加しました。

農業改良普及課から、柑橘の主要な病害虫と生態、防除法について説明を行いました。柑橘類の基本的な病害対策として冬期の感染枝の剪定除去(耕種的防除)を行うこと、農薬の特性(浸透移行性、耐雨性など)を踏まえた使用により効果的な防除が行えることを周知しました。参加者からは、台風が頻発していた時期であったため、かいよう病の防除法に関する質問を多くいただきました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と協力して病害虫対策の支援を行っていきます。